原子力の自主的安全性向上の取組（ロードマップ）

電気事業者個社の取組　電気事業者全体の取組
メーカー・電力全体の取組　政府、学会等の取組

総合資源エネルギー調査会
原子力の自主的安全性向上
に関するWG　第10回会合
資料1

各原子力事業者のリスクマネジメント向上

- ①経営トップのコミットメントを担保する社内体制の構築
- ②社内における原子力安全の監視機能の強化
- ③外部ステークホルダーの価値観を汲み上げる方策の検討、
- ④具体的なリスク指標（PRA、パフォーマンス・インディケータ等）を活用したプラント監視能力の向上
- ⑤リスクマネジメントの取組を進めるための人的基盤の強化
- ⑥各事業者の取組を定着させるための仕組み・インセンティブ（財産保険料の差別化等）の検討
  - インセンティブの導入開始
- ⑦リスクマネジメントの前提となる人的な側面（風土・文化）への対応（自発的報告制度など）、安全文化の醸成

PRAの適切な実施

- ①PRA実施体制のあり方、PRA活用ロードマップの検討、策定
- ②各社のPRA実施を慫慂するとともに、PRA高度化に向けた研究を担う主体の構築
  - ・PRA実施体制のピアレビュー等品質保証体制の確立
  - ・PRA高度化に向けた研究の実施（外的事象PRA、Level3-PRA等）
  - ・PRAのための基盤データベースの整理・拡充
  - ・PRA活用が進んできた段階で、リスク情報に関する国民、関係当局とのコミュニケーションの実施
- ③PRA活用のための体制整備（各社におけるPRAの実践、安全性向上対策への活用、リスク情報を扱う人材の厚みの拡充）
- ④政府、学会等によるPRA活用のための環境整備

原子力事業に関するパブリック・リレーションの改善

- ①各炉毎のリスクの違いを前提としたリスクコミュニケーションの実施
- ②立地地域との情報共有や緊急時対策立案への協力
  - ・立地地域との情報共有、防災対策立案への継続的な協力
- ④政府、学会等によるリスクリテラシー向上に向けた取組の検討、実施
  - ⑤PRA実施、ﾘｽｸﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄをサポートする主体が国民の信頼を得た段階で、科学的・客観的な意見集約・情報発信機能を有する産業界側の主体を構想

電気事業者による自主規制を通じた運転管理の向上

- ①JANSIの機能強化
  - ー電力トップのコミットメント強化とガバナンスの独立性強化
  - ー 職員のプロパー化、グローバル化へ向けた取組の実施
- ②JANSIによるピアプレッシャーの高度化。（運転実態のランキング実施へ向けた準備の加速）、サイト別ランキングの見える化（インセンティブの検討）
  - インセンティブの導入開始

自主的安全性向上に向けたメーカーの役割

- ①安全上の課題の電力間での横展開、新たな安全対策の提案等、メーカがより安全性向上に貢献するための方策の検討
  - ・科学的・客観的な意見集約・情報発信機能を有する主体へのメーカーの貢献

原子炉の安全性向上に直結する研究開発の機動的・効率的な実施

- ①軽水炉安全性向上の技術開発マップの策定
- ②原子力研究開発全体の技術開発マップの策定
- ③ 規制研究との利害相反を排除するための研究実施枠組みの構築
  - ・技術開発マップの改訂
  - ・原子力安全の基盤となる事項についての共同研究の実施

最新の海外の知見の迅速な取り入れ、日本の取組の海外発信

- ①海外の知見を取り入れるための取組の実施（IAEAのレビューサービス等の積極活用）
- ②海外の知見のリスクマネジメントへの積極的な活用
  - ー経営層のリーダーシップのあり方
  - ーリスク情報の活用のあり方
  - ・海外の知見の取り入れ、日本の取組の発信に係る取組の継続的な実施